

## 県民の声 が反映される 県政運営をめざして

今議会では、地域医療再生計画のために50億円、災害拠点病院の耐震化整備に27億円基金を積み立てること、新幹線関係の基金を改廃するなど約115億円の補正予算をはじめ、食の安全・安心推進条例および滋賀県環境総合計画の改定を議決しました。

対話の会・びわこねっとへは、たくさんの方々が来訪され、公の施設や外郭団体の見直しなどについて、何度も要請を受け、厳しさを増す財政事情を踏まえながらも、県の説明や話し合いが必要であるという思いから会派代表的質問や討論を通し、県民の皆様の声を反映しました。

### 平成22年度予算編成と 事業仕分けについて

**Q** 歳入確保について、数値目標をしっかりと掲げ、目標達成に向けて努力すべきと思うが、意気込みを含めてどのように考えているのか伺います。

**A** 知事 未利用国有地の平成22年度において40億円の目標を達成できるように、そして県有資産を活用した広告料収入の確保やネーミングライツ販売に引き続き取り組むとともに、歳入確保に向けて全庁挙げて、一層積極的に取り組めます。

**Q** 市町に係る事業見直しについて、見直し内容によっては再考すべきと思うが、どのように考えているのか伺います。

**A** 知事 市町にとっても財政状況は極めて厳しいということと同様であり、**市町長の皆さんからの意見を真正面から受けとめながら、最終的に判断し、予算に反映してまいります。**

**Q** 新たな福祉・教育振興基金12億6000万(下図参照)は、滋賀らしい福祉施策や教育施策を推進するためにも、速やかに活用すべきと考えるがどうか伺います。

**A** 知事 福祉・教育振興基金は、福祉および教育の振興を図るため設置しており、具体的な活用内容については、来年度の厳しい財政状況を踏まえて**十分検討し、的確な活用を図ってまいります。**



**Q** 国の事業仕分けについて、地方交付税を含め、県にどのような影響があると分析し、それを受けてどう対応しようとしているのか伺います。

**A** 知事 事業仕分けについては、ムダを根絶し、国民の求める政策を実現しようという姿勢には共感しています。国の事業に対し、国民の視線が注がれ、透明度を高めたという意義は大変大きかったと認識しております。全国知事会を通じまして、地方交付税の復元・増額や地域の実情に応じた施策発展のため、交付税率の引き上げなどを主張しています。

### 外郭団体および 公の施設の見直し計画について

**Q** 廃止や縮小という報道を見て、今初めて聞いたと驚いている人が多いけれど、県の一連の財政改革の流れについて伺います。

**A** 知事 平成10年度以降、厳しい財政状況を踏まえて五次にわたる財政構造改革をすすめ、外郭団体に関しては平成9年度以降四次にわたる見直し、公の施設については平成18年度の指定管理者制度の導入にあたり原点から見直し、平成17年2月に「公の施設の見直しについて」をまとめ、**施設の廃止、移管やあり方等検討を進め、その流れの上で、一部さらなる見直しをしたものです。**

**Q** 今回の見直し計画は、これまでと違い、何を重視されたか伺います。

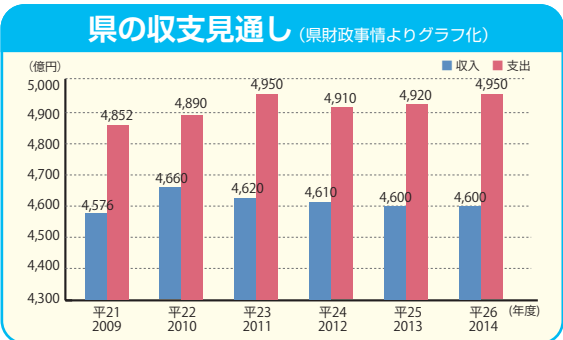
**A** 知事 ①平成20年秋に行政経営改革委員会に諮問し、外部の視点で集中的に審議。②今の地方分権改革の大きな流れの中で、できる限り現場に近い所で住民ニーズに即した課題の解決を図る、近接補完の原理、市町の役割を重視。③県や市町その他、地域やNPO、民間事業者といった多様な主体がそれぞれの特色を活かしながら**公共サービスを担う「新しい公共」**という視点も大切にしました。

**Q** 行政サービスの総点検は一定評価できますが、「費用対効果」「無駄の排除」だけでは馴染まないものもあります。年内に見直し計画を策定すると提起されていますが、県民に理解してもらうためには、どのような手立てをうたえますか。

**A** 知事 施設にもありますが、出発点にあるものもあり、計画を実現していく上で、**単に効率性だけでなく、丁寧に説明していく必要性**があります。これまでの行政としては文化施設の使用価値、利用価値を重要視してきましたが、存在価値やふれあい価値という点まで含めて、双方向の意見交換ができるよう対話の場も設けます。

**Q** 従来「公共」といえば、安定した運営やサービスが利用者である県民にとって安心感をもたらしていたと思われるが、なぜ「新しい公共」を進めようとするのか、その考え方について伺います。

**A** 知事 **これからは分権社会、地域主権**。それぞれ一人ずつが、自分でできることは自分で、隣近所のできることは隣近所で、それでもできない事は行政つまり税金で担ってまいります。公の施設がみんなの施設になる、そしてお互いの歩み寄りが必要な時代になっていくということです。この苦しい状況を県民の皆さんと乗り切っていきたいと覚悟を新たにしております。



つぎつぎ更新中!!  
biwako-net.jp  
会派ホームページ

寄せられたご意見は、県政にどんどん反映します。是非、ご覧ください。

